

日本痛風・尿酸核酸学会 理事会議事録

開催日時：2025年1月27日（月）18：00～19：10

会 場：ZOOM 開催のため各自勤務先等

(1) 久留理事長が議長となり午後18時00分に開催を宣言した。

理事 20名中 出席 17名 委任状 3名

本日の出席状況は上記の通りで、定款第31条に基づき本理事会は成立する事が宣言された。

出席者（敬称略）

（理事）久留 一郎、市田 公美、安西 尚彦、荻野 和秀、
加藤 雅彦、金子 希代子、四ノ宮 成祥、
高田 龍平、谷口 敦夫、津谷 寛、土橋 卓也、
箱田 雅之、細山田 真、松尾 洋孝、森崎 隆幸、
森崎 裕子、山内 高弘

（監事）内田 俊也

（委任状）大山 博司、仲川 孝彦、益田 郁子

（若手委員長）桑原 政成、（ガイドライン改訂委員長）今田 恒夫

(2) 続いて予め配布された議案資料に沿って以下の通り審議が行われた。

【第1号議案 2024年度決算・監査報告】細山田先生、内田先生
貸借対照表の資産の部では資産合計が当年度527万円減の5775万円、負債の部では負債合計が前年度より184万円減の544万円となり、正味財産合計5230万円と当年度343万円の減少となっている。正味財産増減計算書については、ガイドライン印税が当年度1万円減で35万円の収益、ガイドライン転載許諾は当年度121万円増で351万円の収益となり、第57回総会収入は当年度141万円減の1053万円の収益で、経常収益は当年度25万円増の2090万円である。経常費用については、受取寄付金を原資とする若手研究者支援事業は116万円と当年度1万円減。総会費用は1244

万円と当年度 50 万円増であった。以上より、経常費用は前年比 153 万円減の 2433 万円となった。財産目録では正味財産が 5230 万円と貸借対照表の正味財産と一致している。また税理士の確認報告書を得ているとの説明があった。その後、内田監事より監査報告があり 2023 年 12 月 1 日から 2024 年 11 月 30 日までの業務執行状況並びに財産状況について監査を実施し、すべて適法であり各種計算書類は財産状況および事業年度の収支状況を正しく示しているものと認めるとの報告があった。議長が議案 1 の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

【第 2 号議案 2025 年度予算案】 細山田先生

経常収益について、若手研究者支援事業の原資となる受取寄付金は今年度も 110 万円を計上、特別賛助会費と正会員会費は前年度予算とほぼ同額のそれぞれ 60 万円と 420 万円を計上、総会収入は 151 万円増の 1204 万円を計上する。次に経常費用について、給料手当の 90 万円増額を計上するほかは、前年度決算とほぼ同程度である。租税公課は 2024 年度の事業収入に対して計算された 101 万円を計上している。第 58 回総会収入および総会費用はどちらも 1204 万円と同額を試算している。以上より、2025 年度予算案として経常収益を 2272 万円、経常費用を 2522 万円と、経常増減額を 250 万円の減と見込んでいるとの報告があった。議長が議案 2 の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

【第 3 号議案 第 60 回総会（2027 年開催） 会長選出】 久留理事長

久留理事長より第 60 回（2027 年開催）学会総会の会長候補者として帝京大学薬学部 人体機能形態学 教授 細山田 真 先生を社員総会へ推挙することが提案され、賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

【第 4 号議案 2024 年度学会賞受賞者決定報告】 久留理事長

2024 年度学会賞は医療法人社団つばさ両国東口クリニック 理事長 大山博司 先生に決定したことが報告された。

【第 5 号議案 2024 年度若手研究者支援事業 若手研究者賞・若手研究助成決定報告】 久留理事長

若手研究者賞は防衛医科大学校 河村 優輔 先生に決定した。また若手研究助成については、名古屋大学 大橋 勇紀 先生、東京薬科大学 関根 舞 先生、自治医科大学 桑原 政成 先生、帝京大学 藤井 航 先生、久留米大

学 森川 渚 先生の5名の先生に決定したとの報告があった。

【第6号議案 2024年度 Web 講演会報告】久留理事長

第1回は2024年6月2日に『診療ガイドラインの作成と活用：Mindsの方法の概要』というテーマで京都大学 中山 健夫 先生に講演いただいた。第2回は2024年10月27日に若手研究者賞受賞講演として、防衛医科大学校 河村 優輔 先生に講演いただき、また『プリン代謝からみた脳発生機構』というテーマで早稲田大学 榊原 伸一 先生に講演いただいたとの報告があった。

【第7号議案 第58回総会優秀演題賞候補演題決定報告】山内先生

山内先生より優秀演題賞候補について、防衛医科大学校 松尾 洋孝 先生の「約262万人を対象とした377個の痛風関連遺伝子座の同定：国際共同研究によるゲノムワイドメタ解析」、東京大学 佐藤 奈々 先生の「非プリン型キサンチン酸化還元酵素阻害剤による低酸素条件下のマウス脳におけるATP維持効果」、東京薬科大学 関根 舞 先生の「PRPP前駆体によるプリンサルベージ経路の強化」、福岡大学 坂口 崇 先生の「尿酸値管理の新たな一手としての低用量併用療法：無作為化比較試験のシステマティックレビューおよびメタアナリシス」、静岡県立大学 川上 由香 先生の「エネルギーの不足および高たんぱく質摂取が血清尿酸値を増加させる」の5演題に決定したとの報告があった。

【第8号議案 高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第4版ガイドライン改訂委員会報告】今田先生

2024年7月から2025年1月にかけて、96のCQの中から6つのCQを採用した。1位が薬剤選択①、2位が合併症予防③（心イベント・腎イベント）、3位が合併症予防④（心イベント・腎イベント、総死亡）、4位がその他①（治療期間）、5位が患者背景①（利尿剤使用中の患者）、6位が治療基準・目標値②である。今後この6つのシステマティックレビューを進める予定。順調にいけば1年後にパネル会議（推奨度決定）・草案作成・外部評価を行うことになるとの説明があった。

【第9号議案 編集委員会報告】山内先生

優秀論文賞について編集委員会で審査をした結果、最優秀論文賞に該当する方はいなかったが、優秀論文賞（副賞5万円）に両国東口クリニック 藤森 新 先生の「痛風発作を起こしていない時期に実施されたクリアランス

検査で高尿酸血症を呈さない痛風患者」、帝京大学 細谷 拓司 先生の「Effect of animal diets on urate kinetics in uricase knockout mice」、両国東口クリニックの大山 博司 先生の「混合型病型に対する尿酸排泄促進薬と尿酸生成抑制薬の少量併用療法」の3編を推薦したいとのことであった。議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

また編集委員の改選により、次期編集委員として千葉大学 大内 基司 先生、獨協医科大学日光医療センター 大谷 直由 先生、帝京大学 柴田 茂 先生を推薦したいとのことであった。議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

続いて報告事項として、2024年度 J-Stage アクセス数は月平均 29,200 アクセスで順調である。海外（特に米国）からのアクセスが増えており今後図表の legend のみならず、図表そのものを英語にするなど投稿規定の見直しを検討していきたい。2024年度学会誌の掲載論文数は12編であり多くの投稿をいただいている。学会誌の転載利用料金についてはガイドラインの料金に合わせたいと考えている。J-Stage の公開方法については PDF の中に入らなくても全文が J-Stage の画面上で見ることができる公開方法に変更していく。学会誌の紙媒体での発送を次号より廃止する、などが説明された。

【第10号議案 認定痛風医資格制度委員会報告、COI 委員会報告】谷口先生（動画報告より）

昨年3月25日～4月24日にオンデマンド形式で第13回教育研修会を行い桑原先生、藏城先生、今田先生に講演いただき36名の参加者があった。認定痛風医試験については申込者がなく実施しなかった。今年度も昨年同様オンデマンド形式で行う予定。山下先生、大谷先生、土橋先生に講演いただくことになっている。視聴期間は3月24日～4月25日を予定している。認定痛風医新規申請1名、更新9名書類審査については昨年同様 Web で審査を行い、全員が資格を満たしていることを委員会として確認しているため、理事会として審議いただきたいとのことであった。その後議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。会計報告については収入が229,000円、支出が79,640円であった。利益相反委員会からは、報告なしとのことであった。

【第11号議案 ガイドライン広報委員会報告 中国語翻訳版の進捗状況を含む】市田先生

2023年10月に中国語版ガイドラインの販売が始まった。その販売促進について委員会で話し合った。エーザイが中国でドチヌラドを販売するので、そこで一緒にプロモーションをしていただけないかとコンタクトを取ったが、なかなか難しいとの回答であった。また日本の施設には中国からの留学生や、中国の先生との共同研究をしている先生がいるので、メルマガで学会員に向けて販売促進のアナウンスを流した。さらに（中国に関係のある）評議員の先生方から中国の先生へ中国語版が販売されたことを情報提供していただくようお願いした。この委員会の中で中国でも痛風、高尿酸血症のガイドラインが出ているという情報があり、それについて調べたところ、日本のガイドラインのように痛風、高尿酸血症について全体を網羅するガイドラインというよりは、それぞれの領域の先生が適時発行しているという内容のものだったので、ぶつかることはないだろうという結論に至った。中国語版の販売実績について2023年10月から12月は売り上げがなかった。そのあとの2024年1月から12月までの売り上げに関しては今年の4月にエージェントから報告があるとのことであった。

【第12号議案 ダイバーシティ推進委員会報告】金子先生

委員の交代について、8名中4名の先生が任期満了となり、新たに大内基司先生、大谷直由先生、杉原志伸先生、高田龍平先生に就任をお願いし了承していただいた。委員長は金子先生が継続し、オブザーバーには細山田先生が就任した。第57回総会（鳥取）における活動としては、託児室の募集をしたが希望者はなしであった。ニーズ調査アンケートを行いその結果を次回、次々回会長にフィードバックした。アンケートの回収率は低かった。内容としては、特別講演、シンポジウムが好評であった。また学会に集中できる、観光も可能、交通の便、オンデマンドとの併用を希望などがあがった。企画や要望についてはフレイル対策、痛風関節炎、境界領域の研究、参加型の企画などがあがった。第58回総会（東京）についても託児室やニーズ調査アンケートを行う予定。また多職種連携シンポジウムについて『医療現場における働き方改革の現状は？』というテーマで5名の先生に講演をお願いするとのことであった。男女共同参画学協会連絡会関係では発足した時はオブザーバー会員だったが3年間の期間が終わって、昨年12月から正式加盟学会員になって継続している（分担金変わらず）。

【第13号議案 若手委員会報告】 桑原先生

4年目に入り現在メンバーが4名（川知 祐介 先生、篠原 啓介 先生、田中 祥朗 先生、松隈 祐太 先生）増えて委員20名、オブザーバー4名、相談役1名となった。阿部 弘太郎 先生や高田 龍平 先生はそのままオブザーバーとして継続していただいている。2024年は5回、今年は1月に1回委員会を行っている。若手委員会のメンバーが増えてきたためこれからも継続して多くの先生方と活動していくことを目指して、謝金を1回8,000円から3,000円に減額することとした。その他の活動としては、第58回総会での高血圧学会とのジョイントシンポジウムの立案、若手委員会で作成した日本語レビュー論文を痛風・尿酸核酸学会誌へ投稿、委員間の交流を深くするため委員へ加入学会のアンケート調査（若手委員会メンバーの所属学会については、データベース化できている状態）、総会2日目朝7時半から公開型で若手委員会を開催し自由に見学していただく、高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第4版作成の協力などがあった。続いて2024年度目標の達成状況について報告があった。若手研究者に痛風・尿酸領域に興味を持ってもらい、学会や若手委員会に多くの研究者に加入して頂けるように努めることに関しては少しずつ出来ていると思う。海外領域の先生方との交流や一般の方への普及、若手とベテランの交流などに関してはあまり進んでいないので今後の課題となる。ただしガイドラインを通しての他学会との交流や論文作成、ジョイントシンポジウムに関しては活発なので今後も継続していきたいと思う。画像データ解析など、痛風・尿酸核酸領域の新たな研究について今後も続けていきたいとのことであった。最後に先日の若手委員会で今年度の目標を設定したとのことであった。内容としては、TV活動・YouTube・学会ホームページなども含め、一般の方も含めた幅広い対象者に対しての啓発活動、G-CANや国際プリン・ピリミジン学会での発表や交流などを積極的に行う、他学会や、他学会の若手委員会との交流、整形外科・リウマチ科・基礎領域の先生に声掛けしてリクルートを行う、KDBやJMDCなどのビッグデータを用いた疫学研究などについては、共同研究を進めていく、若手委員会のメンバーがWeb会議以外でも交流できる場の提案などがあげられた。

【第14号議案 学術交流委員会報告】 山内先生

各種学会との学術交流につき報告があった。特筆すべき点として、大谷先生担当の動脈硬化学会でTEAM事業「脳心血管病予防に関するリスク管理チャート」に尿酸に関する記載を追記修正していただいた。また土橋先生が担当する高血圧学会で今年の10月に合同シンポジウムを開催していた

だき、今回の大山先生の総会でも同様に合同シンポジウムを企画していただいているとの報告があった。

【第15号議案 ありかた委員会報告】久留理事長

若手委員会のアンケートから抽出した課題の進捗について確認された。アンケートの中で、薬剤の併用について書かれていたが、これはガイドライン委員長の今田先生の方で併用に関しても CQ が出来るということであった。単位が取れる協力学会をたくさん作った方が良いという意見に関しては、学术交流委員会が拡大しているので進展しているのではないかと思う。合同企画については学术交流委員会や若手委員会で積極的に進めていただいている。一方で整形外科学会やリウマチ学会との連携がなかなかうまくいっていないことが現時点での大きな課題だと思う。SNS (X) を利用した活動も停滞している状況。基礎医学との共同に関しては、昨年高血圧学会に参加した際に、分子生物学会とセッションを行い盛り上がっていた。当学会もこのような基礎系の学会とのジョイントが必要だと思う。学会誌の国際化については引き続き学会のグループで国際雑誌に投稿することも継続してほしい。国際交流としてドチヌラドが中国で販売されるということで今回エーザイが中国のリウマトロジスト 10 名を当学会総会に招待する（同時通訳が 1 人 1 人につく）。そこで交流のチャンスが発展していくのではないかと思う。

学会と財団との協調の推進について、執行部と土橋先生、山中先生と話し合いを行った。まず財団では予防啓発活動が十分に出来ていないということ。また以前は患者会（痛風友の会）が存在していたが、現在は無いということ。人材育成では今年度の財団研修会では 100 名ほどの先生方に参加していただいたが、臨床のレベル的には少し低迷しているので協力医療機関の整備を検討しているとのこと。研究助成については、学会でも若手研究者に対して助成を行っているので、重複しないように財団の方は萌芽的なタイプの課題を取り入れるようにすること。学会としての課題としては産官学連携（企業等）、調査研究、国際交流があげられる。インドネシアの先生から痛風について研究してみたいと言われているので、今後オンラインで話し合う予定。このようなチャンスを生かして国際交流を進めていったら良いと思っている。また難治性痛風に対して尿酸分解酵素の臨床試験を北欧の会社（Jonathan M. Kohl President & Representative Director Orient Strategy K.K.）で行っている。Uricase と rapamycin が両方入っていると効果が良いとのこと。そこで先方より当学会員の先生がたのご意見を伺いたいとのことで、それが順次進んでいる状況。市民公開

講座や患者会を含む連携はガイドラインの作成のためにも重要なので強化していきたいとの説明があった。

【第16号議案 庶務幹事報告】 細山田先生

一般社団法人化以降の収支推移表について、ここ2年赤字収支となり、累積利益剰余金が減少しているが、新ガイドラインの発刊により是正されるものと考えている。学会ホームページアクセス数は、月平均2500アクセスと、前年度とほぼ同様である。10月6日に2124アクセスと高騰したのは、NHKの「チョイス@病気になったとき」という番組で痛風がテーマの放送日で、大山先生が出演されていた。2024年12月現在、学会員数520名で、前年度に比べ20名減である。会費未入の会員が昨年末で71名と1割強だったとの報告があった。久留理事長より先生方のネットワークを利用して会員を増やして欲しいとのことであった。

【第17号議案 役員改選】 久留理事長

新評議員として評議員会に鳥取大学 経遠 智一 先生 を推薦することが決定された。また久留理事長が総会終了時をもって辞任するため、新理事長として市田公美先生を、新副理事長として荻野和秀先生を推薦し、賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同により承認された。その後市田先生、荻野先生からご挨拶があった。

【第18号議案 その他】 久留理事長

山内先生より、査読の依頼などをする際に参考にしている、専門分野アンケートをお願いしたいとのことであった。内田先生より、リウマチの先生方が第58回総会に来られるということで中国語版ガイドラインを準備してもらっていて、これを渡すなり、買っていただくなりできないかとのことであった。現時点では判断できないためエーザイの担当者に伝えることとなった。もう一点内田先生よりガイドライン第4版について第3版の時と同じように年末発行になりますかとのことであった。発行年は1年でも新しい方が良いと思うとのこと。今田先生より出版社と執行部の先生方と相談しながら決めていきたいとのことであった。最後に桑原先生より生活習慣病関連9臨床団体への加入がなかったとことが報告された。

【第19号議案 第59回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】 山内先生
会期については総会が始まって以来初の金・土開催で 2026年2月27日（金）、28日（土）を予定している。場所は福井駅東口直結の再開発ビル

AOSSA（8F 福井県民ホール、6F 福井県地域交流プラザ）で、特別講演を2題準備している。総会翌日の日曜日にはエクスカージョンを予定しているのでぜひ参加していただきたいとのことであった。

【第19号議案 第58回日本痛風・尿酸核酸学会総会長挨拶】 大山先生（久留先生代読）

2025年2月20日（木）、21日（金）に両国の国際ファッションセンタービル KFC Hall&Rooms で開催する。今回のテーマである「遺伝と環境への総合的アプローチ」に基づき、多彩な企画を準備している。皆様にとって有意義な総会となるように事務局一同努めていきたいとのことであった。

最後に久留理事長より退任のご挨拶があった。金子前理事長から引き継いだ課題等をこの2年間で行ってきたが、まだ達成していない課題については市田新理事長に引き継いでこの学会を益々発展させていってほしいとのことであった。

以上で理事会の審議はすべて終了し、議長は19時10分に閉会を宣言した。

この議事録が正確であることを証する為、理事長及び監事が記名捺印する。

2025年1月30日

理事長 久留 一郎

監 事 内田 俊也